富岡製糸場総合研究センターだより
No. 31
（2023年9月発行）
富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

サルスベリ（百日紅）

正門を入って右側、片倉工業記念碑や史跡標柱の奥に大きく枝を張ったサルスベリが植えられています。サルスベリの語源は猿が滑（すべ）るほど樹皮が滑（なめ）らかという例えからといわれています。毎年7月頃から花が咲き始め、10月頃までつぼみが次々に開花し長く咲き続けます。花の咲いている期間からヒャクジツコウとも呼び、漢字の表記も「百日紅」です。

紅色や白色などの花をつけますが、富岡製糸場では紅色の花です。

いつこの場所に植えられたのか記録はありませんが、古写真に写っていたことで、歴史をさかのぼることができました。原合名会社経営時代の1908年（明治41）頃や1921年（大正10）頃に撮影された古写真に、このサルスベリが写っているものがあり、このことから少なくとも1908年（明治41）以前には植えられていたと考えられます。場内には多くの樹木がありますが、製糸場内では古くから植栽が行われ、労働や生活の場に緑や草花が必要という意識があったことが分かります。

1921年（大正10）頃の古写真には「舞踊（ぶよう）の実演」というタイトルがつけられ、白い制服を着た工女達がサルスベリの前で輪になって踊る様子が写っています。この写真は西置繭所（にしおきまゆしょ）の展示年表で見ることができます。

バックナンバーはこちらから▼
◆発行◆
富岡市世界遺産観光部　富岡製糸場総合研究センター